

Cisco Prime Network Registrar 9.0との互換性に関する考慮事項

内容

[概要](#)

[はじめに](#)

[要件](#)

[CPNR 9.0を使用したIPAM 8.3 – セットアップ](#)

[CPNR 8.3および9.0の新機能](#)

[IPAM 8.3の新機能](#)

[要約](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Prime Network Registrar(CPNR)IP Address Management(IPAM)8.3とCPNR 9.0の互換性について説明します。IPAM 8.3をCPNR 9.0で動作させるためにIPAM Executive/Remoteエージェントをインストールする際に必要変更を説明します。

このドキュメントでは、IPAM 8.3で使用できるCPNR 8.3および9.0の機能についても説明します。

はじめに

要件

IPAM 8.3 Executive/Remoteエージェントの「cnrsdk」フォルダを置き換えるには、CPNR 9.0 32ビットソフトウェア開発キット(SDK)パッケージを使用する必要があります。

CPNR 9.0を使用したIPAM 8.3 – セットアップ

IPAM 8.3をCPNR 9.0で動作させるには、IPAM Executive/Remoteエージェントの「cnrsdk」フォルダ(<INC-HOME>/cnrsdk)を32ビットCPNR 9.0 SDKパッケージの内容に置き換える必要があります。IPAM 8.1.2以降では、CPNRサーバを管理するためにIPAMリモートエージェントを使用する必要があります。「cnrsdk」フォルダをIPAM 8.3リモートエージェント上のCPNR 9.0 SDKに置き換えるだけで十分です。

IPAMリモートエージェントの「cnrsdk」フォルダを置き換えるには、次の手順を実行します。

1. IPAM 8.3リモートエージェントを停止します。**Linuxの場合** : <INC-HOME>/etc/incontrol stop**Windowsの場合** : IPAMサービスを停止するには、Windowsサービスコントローラを使用します。デフォルトでは、次のディレクトリの<INC-HOME>ディレクトリ
: **Windows** : C:\Program Files\Cisco\Cisco Prime Network Registrar IPAM**Linuxの場合**

/opt/incontrol

2. IPAM Remoteエージェントの「<INC-HOME>/cnrsdk」フォルダまたはサブディレクトリに移動します。
3. 「cnrsdk」フォルダまたはサブディレクトリ内のすべてのファイル/フォルダを削除します。フォルダ自体は削除しません。
4. CPNR 9.0 32ビットSDKパッケージを「<INC-HOME>/cnrsdk」フォルダにコピーします。
5. CPNR 9.0 SDKパッケージを展開します。
6. cnrsdk.jarを「<INC-HOME>/cnrsdk/classes」フォルダから「<INC-HOME>/classes」ディレクトリにコピーします。

```
cp <INC-HOME>/cnrsdk/classes/cnrsdk.jar <INC-HOME>/classes
```
7. リモートエージェントでIPAMサービスを開始します。**Linuxの場合**：<INC-HOME>/etc/incontrol start (IPAMエージェントを起動するには、「incadmin」ユーザとしてログインする必要があります)。**Windowsの場合**：IPAMサービスを開始するには、Windowsサービスコントローラを使用します。

注：IPAM 8.3では、CPNR 9.0 DHCP/DNS/CDNSサーバのDHCPまたはドメインネームサーバ/キャッシングDNS(DNS/CDNS)サーバを作成する場合、選択される製品名は「CNR DHCP 8.3」および「CNR Authoritative DNS 8.3/CNR」になりますDNS 8.3'をそれぞれキャッシュする。

CPNR 8.3および9.0の新機能

CPNR 8.3では、次の新機能が導入されています。

- クライアントベースのDNS64プレフィクス
- 国際化されたドメイン名
- 同じOS上のCDNSおよびADNS (DNSハイブリッド)
- DNS応答ポリシーゾーン(RPZ)
- Generic Security Service Algorithm for Secret Key Transaction(GSS-TSIG)を使用した、セキュアなダイナミックDNSおよびゾーン転送
- Representational State Transfer(REST)APIのサポート
- リソース制限アラーム
- スーパーユーザ権限のないプロトコルサーバのインストール
- Active Directory(AD)による外部認証
- Bring Your Own Device(BYOD)のサポート

次の新機能がCPNR 9.0で導入されました。

- エンドツーエンドのIPv6サポート
- Windows Server 2012のサポート
- DNSプッシュ通知
- RRの加重ラウンドロビン
- 複数のDHCPv6オプションインスタンス

IPAM 8.3の新機能

IPAM 8.3では、CPNR 8.3の次の機能が、他のさまざまな拡張機能とは別にサポートされています。

- クライアントベースのDNS64プレフィクス
- DNSビュー (8.2機能)
- 国際化されたドメイン名

要約

IPAM 8.3 Remote Agentの「cnr sdk」フォルダまたはサブディレクトリが前述のように更新されると、IPAM 8.3でサポートされているすべての機能がCPNR 9.0で正常に動作します。

CPNR 8.3およびCPNR 9.0の次の新機能は、IPAM 8.3で管理されるCPNR 9.0のインストールで使用できません。これらの新機能の設定は、CPNR 9.0で実行でき、使用できます。

- DNS応答ポリシーゾーン(RPZ)
- REST APIのサポート 注：REST API呼び出しによってCPNRで作成または変更されたオブジェクトは、DHCP/DNS設定タスクがIPAM 8.3からCPNR 9.0にプッシュされると消去されません。
- リソース制限アラーム
- スーパーユーザ権限のないプロトコルサーバのインストール
- ADによる外部認証
- エンドツーエンドのIPv6サポート
- Windows Server 2012のサポート
- DNSプッシュ通知
- RRの加重ラウンドロビン

CPNR 8.3および9.0の次の機能は、CPNR 9.0サーバの管理に使用される場合、IPAM 8.3では使用できません。

- GSS-TSIGを使用したセキュアなダイナミックDNSおよびゾーン転送
- 同じOS上のCDNSおよびADNS (DNSハイブリッド) 注：IPAMでは、同じIPアドレスのCDNSサーバとADNSサーバの両方の設定はサポートされていません。
- BYODサポート 注：DHCP構成がIPAMからCPNRにプッシュされると、ローカルで作成されたスコープ、クライアントクラス、クライアントなどのオブジェクトが削除されます。

関連情報

- [Cisco Prime Network Registrarのドキュメント](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)